令和８年７月１２日午前開催　市長と語る！新タウンミーティングの概要

１　日程等
（１）開催日　令和８年７月 12 日（日）午前 10 時開会（午前 11 時 40 分閉会）
（２）会　場　大里コミュニティセンター　大集会室
（３）テーマ　市長の基本政策・令和８年度予算について

２　意見交換・質疑応答の概要
市民）
　小中学校の体育館のエアコンについてお伺いします。全部を完了するのが令和 11 年の予定と聞きました。エアコンのある学校とない学校で、部活動の練習の質が違うかもしれません。また、熱中症特別警戒アラートが出たとき、エアコンのない学校では練習することができないのは公平ではないという声も聞きます。
　財政が健全であるとお聞きします。また避難所として国の補助金も出るとお聞きしています。午後も使用する頻度の高い中学校を優先的に一斉にエアコン設置するようにお考えいただけませんでしょうか。他の市では中学校を一番最初に一斉にやっております。
市長）
　御意見としてお伺いをしておきますが、順番についてもある種の公平性を持って、小学校・中学校バランスよくエアコンをつけさせていただきたいと思っています。
　予算については、いろいろなところから補助金、もしくは交付金をもらっているのは当然ですが、そもそも、予算も限られています。一気にやると約 60 億円という金額となります。事業がいくつもある中に、一つのものに特化をすると、予算には、不具合が出てしまいます。
　当初５年間で実施という計画から、１年前倒しするように指示して進めているということも御理解をいただけたらありがたいと思います。

市民）
　私は吉岡地区に住んでいますが、特にこの川南の高齢化がすごく心配です。マンパワーを活かすという考えで、せっかく立正大学があり、人材がたくさんいるので、例えば福祉科の学生さんに高齢者世帯のごみ出しのボランティアをお願いするとか、市から人を生かす働きかけというのを考えていただくということはいかないでしょうか。
　学生さんも座学ではない何かを得られるいいチャンスになると思います。

市長）
　熊谷市ではスマートシティの取組の中で、「クマポ」というのがあります。この「クマポ」というのがコミュニティポイントといって、ボランティア活動等で地域のために活動していただいた方に付与しています。
　昨年度は立正大学学生をはじめとした若者世代にクマポを知っていただく取組を行いました。引き続き、立正大学との連携が図れるよう検討していきます。

市民）
　高齢者にとっては、スマートシティ化、それからデジタル化が難しいです。そういったことも含めて、デジタル難民をつくらないような対策もお願いしたいと思います。
市長）
　昨年は、スマホ教室なども市としてはやってきたんですけれども、意外に集まらなかったりするので、地域の自治会あるいは公民館とも御相談をしながら触れる機会をつくらせていただきたいと思います。

（市民活動推進課）熊谷市自治会連合会のデジタル化支援事業として、令和７年度に、自治会長向けのスマホ講座を全５回、個別の自治会への出張スマホ講座を全５回実施しました。

（中央公民館）令和７年度に公民館では、スマートフォンに関する講座を９館で１５講座・延べ１７回、パソコンに関する講座を３館で３講座・延べ４５回行いました。

市民）
　跡継ぎがいなくて、若い人が外に出ていってしまい、高齢化がどんどん進み、人材も不足してきています。若い人に残ってもらって後を継いでもらう、家を守ってもらうために、市として何かいい対策があったら、教えていただきたいなと思います。
市長）
　若い世代の市外流出には様々な要因がありますが、その一つとして、市内に希望に叶う雇用環境が十分に整っていないことが大きく影響しているものと認識しています。
　こうした課題に対応するため、現在、埼玉県企業局と連携し、吉岡工業団地に隣接する樋春地区において、約 18 ヘクタールの産業団地を整備する計画を進めています。
　実現までには相応の期間を要しますが、産業団地の整備に向けて、一つ一つ着

実に取り組んでいきたいと思います。
　あわせて東京で企業誘致のセミナーを行っています。これを毎年続けることによって熊谷に入ってくる企業が増える。
　少し時間はかかるかもしれませんけれども、働き口をしっかり熊谷に確保するために取り組んでいることを御理解いただきたいと思います。

市民）
　この地域の将来的なアセットマネジメントの話を聞いたときに、消防署、コミュニティセンター、体育館、行政センターがどうなるか分からないという不安もある中で、この地域の将来的な公共サービスについて、市としてはどんなお考えなのか聞きたいなと思います。
市長）
　まず行政センターの機能については、引き続き残していくつもりでいます。コミュニティセンターについては、まだ耐用年数が 13 年くらいあります。
　ただ、市役所を建て替えることで、今、大里行政センターの中にある都市整備部という一つの市の部が、今の市役所にスペースがないので分庁という形で出させてもらっていますが、新庁舎になるときに戻します。要は市民の方にワンストップで行政サービスができるように変えていきます。その上で、その空いた部分については改めて考えたいと思っています。
　また行政サービスについては、マイナンバーカードを持っていると、印鑑登録証明書、住民票の写し、戸籍証明書などをコンビニなどで取れるようになっています。今後、市役所に行かなくてもできる手続が増えてくると思いますので、そういった部分でも、行政サービスの低下を招かないような取組ができると思います。

（市民課）全国のコンビニエンスストア等の店舗に設置されたマルチコピー機（キオスク端末）で証明書が取得できるコンビニ交付サービスについて、令和８年 11 月２日（月）から令和９年 11 月１日（月）までの１年間、証明書の手数料を 10 円とする「コンビニ交付手数料 10 円キャンペーン」を行います。戸籍証明書（全部事項、個人事項）はコンビニ交付サービスで取得可能ですが、「コンビニ交付手数料 10 円キャンペーン」の対象外です。

市民）
　通勤で荒川と利根川を渡りますが、朝と帰りが混んでしまうので、千代田に橋ができると話だったんですけど、もう少し橋の本数を増やしてほしいです。また、混雑しているときに救急車とかパトカーが来てもよけられない状態があるので、広げてほしいです。

市長）
　千代田町と熊谷の間に利根川新橋が架かることは決まりました。刀水橋から先に本庄に向かっていくとずっと約５キロ単位でありますが、刀水橋と利根大堰間だけが約 10 キロ離れていたのもあり、20 数年ずっと要望してきて、架かることとなりました。
　これ以上橋を新たに架けるというのは難しいですが、混雑解消のため、今、片側一車線の上武大橋のところについては、深谷市長とも相談をしながら要望活動させてもらっています。
　利根川新橋については、片側一車線ではありますが、広さには多少の余裕ができると思います。利根川新橋は埼玉県と群馬県で架ける橋で、10 年で架けるというお話をいただいていますので、見守りいただけたらと思います。
　荒川については、もう熊谷に５本架かっています。今ある橋は県の管理ということになりますので、お話をさせていただきます。

（道路課）御意見については大宮国道事務所及び熊谷県土整備事務所に情報提供させていただきました。

市民）
　埼玉北部は医療の空白地域で埼玉県の南に比べて乏しいです。医療を志す優秀な中学生・高校生はいますが、かなりお金がかかります。優秀な学生を支援していただいて、将来的に熊谷の方の病院に就職や勤務をしてくれるような施策はしていかないのかなと思います。それによって今後の高齢化も含めて医療の従事者を熊谷で育てていけたらと思います。
　救急車がこの辺に来ていただいたときに、まず行くのが深谷の日本赤十字病院や川越の大学病院になりまして、熊谷にも大きい病院はあるんですけど、そこには救急車はあまり行きません。ぜひ優秀な学生を育てていただければと思います。
市長）
　埼玉県自体が 47 都道府県中 10 万人あたりの医師数は 47 位です。埼玉県がそもそも医療過疎、その中にあって県内各地域でも格差があって、残念ながら他地域と比べて北部は単位人口あたりの医師が少ないです。
　深谷赤十字病院や川越の埼玉医科大学総合医療センターは三次救急医療機関ということで、重篤な場合に搬送されていると思います。熊谷市には残念ながら三次救急医療機関はなく、あるのは二次救急医療機関となっています。

医師の確保については、各病院や熊谷市医師会とお話をさせていただきながら、今後検討していきたいと思います。

（健康推進課、警防課）生命の危機に瀕した重篤な傷病者は深谷赤十字病院や川越の埼玉医科大学総合医療センターなどの三次救急医療機関に搬送し、それ以外の入院治療等を必要とする傷病者は二次救急医療機関へ搬送しています。本市では６医療機関（熊谷総合病院、熊谷外科病院、埼玉慈恵病院、関東脳神経外科病院、熊谷生協病院、埼玉県立循環器・呼吸器病センター）が二次救急医療機関として対応しており、そのうち熊谷生協病院と埼玉県立循環器・呼吸器病センターを除く４医療機関が病院群輪番制を敷き、休日・夜間の診療体制をとっています。令和７年は熊谷市内の二次救急医療機関へ、救急出動全体の約 80％の方を搬送しています。

市民）

太田市役所は最上階が展望デッキみたいな感じで、市民に開放して市民の憩いの場となっています。まだ設計変更可能であれば、市民の人が使える展望デッキをつくっていただけないでしょうか。

市長）

新庁舎が移転する北部地域振興交流拠点については現在埼玉県と協議中ですが、議場以外のスペースに椅子などを置かせていただいて、市民の方がお越しいただければ議会を見られるだけでなく、外も見られるようにすることを考えています。議会開会中もそれ以外の期間もそのフロアに来ることはできますので、１年を通して外を御覧いただける環境とできるよう検討しています。